

日本建築学会地球環境委員会脱炭素社会推進合同 WG、脱炭素社会推進会議都市 TF+複合災害 TF
公開研究会（オンライン、ZOOM ウェビナー）

無料、申し込み不要、500 人まで可能

<https://us06web.zoom.us/j/88511668719> あるいは、ウェビナーID：885 1166 8719

11 月 27 日（日）午後 2 時～5 時

テーマ 容積拡大型の都市再開発は脱炭素社会に向かうのか

－神宮外苑再開発を中心にして問う－

「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(SDGs)のタイトルは、「我々の世界を変革する」である。建築、都市、地域を取り巻く我々の世界の変革が求められている。さらに、IPCC 第 6 次報告書では、気候変動に対する緩和と適応のための建築・都市の革新的なデザイン・対策が各国に求めている。

従来型の都市再開発手法で対応しきれない状況ではないし、逆に従来型の都市での建築床面積を増大させる容積率手法による都市再開発は、建設時の総合的な co2 排出量の増大により、緩和と適応策に逆行するリスクもある。また、人口減少社会、かつ、低経済成長社会である日本において、過剰な建築床面積の増殖は、将来的な座礁資産となるリスクも抱える。国際的取り組みとしての TCFD の視点からも、緩和と適応に代わる本質的な建築・不動産投資が問われ、この面からも、従来型の建設・不動産経済振興から、気候変動への緩和と適応に寄与する都市再生のデザインと事業展開が求められる。また、SDGs のゴール 11 の持続的なまちづくりのターゲットには広い市民の参画による都市づくりが求められ、都市再生への直接的な市民参加を促進させる、都市計画及び計画アセスメントの樹立が求められている。

以上の問題意識の上に、緊急の課題である神宮外苑再開発問題に関して関係している専門家、市民に話題提供をしていただき討議を進め、より優れた都市再生のデザインと制度的充実化、新たな事業展開の方向性を考えていきたい。

本公開企画は、建築及び脱炭素都市づくりに長年取り組んできた専門家集団としての、日本建築学会脱炭素社会推進 WG と脱炭素社会推進会議都市及び複合災害 TF の合同で行い、専門家集団としての社会的貢献を果たしたいと思う。

主旨説明 中村勉（脱炭素社会推進会議議長、都市 TF 主査） 20 分

話題提供者 (20×4=80 分)

糸長浩司（複合災害 TF 主査、EAS） 東京都市街地再開発事業での CO2 排出量の推計
ロッシェル・カップ（経営コンサルタント、「神宮外苑再開発計画見直し署名活動」発起人）
都市における公園の在り方と QOL

若山徹（新建築家技術者集団） 神宮外苑再開発の都市計画制度の課題と代替案
原科幸彦（千葉商科大学） 神宮外苑再開発をめぐる環境アセスの課題（計画アセスの不在）

休憩 10 分

討論 60 分

コーディネーター 糸長浩司、 コメント 大野秀敏（東京大学、建築家）

パネラー 登壇者

まとめ 外岡豊（埼玉大学） 10 分